

【暗唱聖句】「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」マタイ 11:28

【今週のポイント】マタイ 11:28 からその意味を深く学びます

【日曜日・休ませてあげよう】

イエス様は「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ 11:28)とされました。有名な御言葉です。多くの方がこの御言葉によって救われたことでしょうか。ところで、この御言葉はどのような文脈の中で語られたのでしょうか。直前のマタイ 11 章 20 節から 24 節にかけて、イエス様はガリラヤの町(コラジン・ベトサイダ)の人々が、イエス様の数々の奇跡を目の当たりにしながら悔い改めないのをご覧になり、大変厳しく叱責されます。いやがおうにも緊張感が高まります。ところが、そのような流れの中で突如、イエス様は「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」と言われるのです。悔い改めなければならない現実を突きつけながらも、イエス様は私たちの弱さをご存じです。必至になってイエス様の教えを聞こうと集まってきている人々を憐れまれたのです。その中には、心には重荷を負って倒れそうな人々もあったことでしょうか。原語では、イエス様は「来なさい」とまず命令されています。本気になって悔い改めるとは、まっすぐにイエス様のもとに向かうことです。裁かれることはありません。主はいつも赦そうとしておられます。罪が赦されるとき、真に心の平安が訪れるのです。

【月曜日・わたしのくびきを負いなさい】

マタイ 11:29、30「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

くびきとは、2頭の牛の首をつなぐための道具です。イエス様のくびきを負うとは、イエス様といつも一緒にいることを意味しています。イエス様は、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」と言われた後に、このように言われたわけですが、真の安らぎはイエス様から離れず、一つとなるときに与えられるのです。これは実に不思議な経験です。イエス様が持つておられる平和や安らぎ、希望と喜びが流れ込んできます。すると、魂の安らぎを得ることができるのです。

また、イエス様は「わたしの軛を負いなさい」と言われた後に、続けて「わたしに学びなさい」と言われました。イエス様といつも一緒にいれば、真理に触れます。人は真理に触れると、もっとそれを知りたい、学びたいという純粋な思いが湧き上がってくるものです。「学ぶ」というギリシャ語は、「弟子となる」という言葉とセットで使われることが多いのですが、真のイエス様の弟子とは、イエス様と一つとなり、イエス様から学ぶものこそがなれるのです。

【火曜日・わたしは柔和で謙遜な者だから】

イエス様は、「わたしのくびきを負いなさい」と言われた際に、「わたしは柔和で謙遜な者だから」と言われました。柔和も謙遜も、もともと「小さい・貧しい」という同じ意味の言葉から来ています。神であられたお方が、どこまでもへりくだって人となったということであり、それゆえ人間の悩みや苦しみなど、その抱えている重荷がどれほど辛いものを理解しているということです。理解しておられるからこそ、私たちの重荷を負ってくださることができるのです。また、イエス様は柔和で謙遜な者だから、イエス様のもとに来るどんな人も拒まれることがないことも現わしています。イエス様のもとにいくのを恐れることはないということです。

イエス様のくびきを負い一つとされ、イエス様から学ぶ人は、イエス様のように変えられていきます。その一つが、柔和さであり、謙遜さとなるわけです。イエス様を信じるようになると、だんだんと私たちもイエス様のように柔和で謙遜な人へと変えられていきます。そして、それはいかに大切なことであることを、主は繰り返し

語っています。

マタイ 5:5 「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ」

第一ペテロ 3:4 「むしろそれは、柔和でしとやかな気立てという朽ちないもので飾られた、内面的な人柄であるべきです。このような装いこそ、神の御前でまことに価値があるのです」

イエス様は、柔和の者は幸いであると言われ、また神様の御前に価値があると言われました。

イザヤ 57:15 「高く、あがめられて、永遠にいまし、その名を聖と唱えられる方がこう言われる。わたしは、高く、聖なる所に住み、打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり、へりくだる霊の人に命を得させ、打ち砕かれた心の人に命を得させる」

またへりくだる者と共に主はおられ、へりくだる者に命を得させると言われました。

【水曜日・「わたしのくびきは負いやすく」】

イエス様は「わたしの軛は負いやすく」と言われました。くびきを負うというと、別の重荷を負わなければならないようなイメージがあるかもしれませんが、そうではありません。イエス様のくびきは負いやすいのです。「負いやい」というギリシャ語は、身体にフィットするという意味の言葉ですが、その他に「良い・楽しい・役に立つ」というような意味もあるそうです。イエス様のくびきを負うことは、良いこと、楽しいこと、役に立つことなのです。これが真実であるということは、実際にイエス様のくびきを負った時に初めてわかることです。

またイエス様のくびきを負うとことで、もう一つ素晴らしいことが起こります。それは、これまで繋がっていた罪の奴隷の軛から解放されるということです。

ガラテヤ 5:1 「この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださったのです。だから、しっかりしなさい。奴隷の軛に二度とつながれてはなりません」

イエス様のくびきを負うことで、罪の奴隷のくびきから解放され、自由となれるのです。この自由こそ、イエス様の「休ませてあげよう」という言葉のもう一つの意味なのです。

【木曜日・「わたしの荷は軽いからである」】

イエス様は、「わたしの荷は軽いからである」と言われました。イエス様とくびきを共にすることで、私たちがイエス様の重荷を負うというよりも、イエス様が私たちの重荷を負って下さるのです。確かに、イエス様のことを知らなかったときには負ったことのないようなものを負うことになるかもしれませんが、しかし、それは軽いのです。

*例話・・・教会で新しい掃除機を購入することになったとき、選んだ基準は軽さでした。椅子の間を持ちながら掃除機をかけなければならないからです。軽い掃除機は大変好評でした。先日、電気屋さんをぶらぶらしていたら、教会の掃除機よりもさらに軽い、なんと 1.1 キロしかない充電式の掃除機が売っていて、これだったら掃除が楽しくなるかと思ったものでした。

また、ガラテヤ 6:2 にあるように、「互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです」と教えられています。イエス様とくびきを共にし、重荷を負いあって生きる生き方を、兄弟姉妹同志でも繁栄させていくことを、主は望んでおられます。